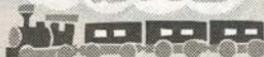


こんにちは 助産師です

第10回



30年前と比べると、妊婦が家族と一緒に新生児の誕生の瞬間を経験する、立会い分娩が多くなりました。それに関する経験が、今の私にはとても貴重な財産になっています。

診療所で働く 一助産師のひとこい



ある日のこと、自立授乳に戸惑うお母さんがいました。それは、新生児への授乳は、3時間ごとと思いついでいたようで、飲ませて、すぐにまた泣いてしまわが子を見てどうして泣いているのかが分からなくなり、赤ちゃんの身体を全部として見るといところまで気付けなくなっていたようでした。

自立授乳とは、赤ちゃんに合せて、好きな時間に好きなだけ飲ませることなのですが、これが難しかったようなのです。育児は、五感が大切といわれます。五感とは、見て、聞いて、嗅いで、味わうで触って、嗅いで、味わうで

一生涯懸命に命の誕生に立ち向かいやっとの思いでわが子を胸に抱けたお母さんですから、きつとやれるはずなのです。そのためには、周りにいる人のサポートを上手に活かしていくことが大切だと思います。また、友達や家族の輪を積極的に広げてみんなで一緒に子育てをするのも良いのでは、ないでしょうか。

コミュニケーションをうまく保つことは、わが子への影響も少なくないと思います。分娩に家族が立ち会う時、きつとそこで命の尊厳を目的にしたりする事でしょう。交通事故など、失って分かる命の尊厳とは違い、生き生きと喜びにあふれ、言葉にならない命。そこで見た「これこそ命」という尊厳を私たちは大切にしていきたいものです。

一助産師は一人でするには負担が多く、周りの多くの人々の協力と理解が大切です。少子化、女性の妊娠、出産の高齢化、経済の先行き不透明さ、医療の現場での変動などの、負の時代にあっても、一生涯懸命に命の誕生に挑むお母さんへ、少しでもお役に立ちたいと思います。

◆子育て・女性健康支援センター

月曜～金曜 10時～16時
土 曜 日 13時～20時

☎0744-21-2422

電話相談のほか、乳房マッサージ、助産院・訪問助産師の紹介も行っている。

婦人科助産師 諏訪幸枝
(医療法人双葉会 富雄産)